

学校の周りを歩く そのI

2019年3月14日(木) 天気、快晴 幾分寒さが和らぐ

授業が始まって2週間。月曜から始まる授業は、木曜まで来るとどうも追いついていくのが大変。しかも、今週は通常の予習・復習以外、7年前に使った教本を総復習しているので、すごいボリュームをこなしている日々だ。そんな中でも息抜きは必要。大学の北院キャンパスの外周を歩くことにした。PCで地図をあらかじめ見て、時計周りに歩くことにした。まずは蘭玉街を南へ黄河路へとくだり、西へ。以前紹介した馬蘭広場に向かい、そこから北へと坂を上る。やがて、東へとバス道路が分かれ、そこを行くとちょうど午後の下校時刻なのか、小学校(沙河区馬蘭小学)からたくさんの生徒が出てきた。歩道には大勢の出迎えの親がいる。女親も多いが、それ以上に年配のおじいさんなども目立つ。子どもを出迎える大人の嬉しそうなこと。家族愛は万国共通。その隣だったか、ビルの中に銭湯なのか浴場なのか、入浴施設が入居していた。実は留学中、宿舎の部屋にはシャワーしかなく、そろそろバスタブに浸かりたいところだったので、この店には触手が動いた。値段は40元とある。しかしタオルも持たない身。結局、今度来て見ようと言うことで止めておいた。道はさらに急に。



午後3時過ぎ、小学校の門前には子供たちの下校を待つ親たちが集まって来る。

丘の上に登り詰めても、そこは大きな事務所ビルがかまえ、富民広場と言うロータリーもある繁華なところだった。そして南へ伸びる道路の先に大学生の宿舎のような建物ビルが見えた。そちらに足を向けると、漸く今日の目標だっ

た北院キャンパスの西北門に達した。後で聞いた話だが、この門の東側に 10 棟近くの寄宿舍が広がっているが、それらは一学年と二学年の若い学生用の建物だそう。彼ら彼女らは、朝の始業時にここから南へと北山の階段を上り、それを乗り越えると今度は百段以上ありそうな下り階段を降りて、やっと教室にたどり着くのだとか。皆さん、さぞかし健脚になれるのだろう。

私もその道行きで今度はキャンパス内を見学。寄宿舍が集まっている所は、必ず超市(スーパー+コンビニ)や学生食堂が備わっていて、さらには食品や生活雑貨を扱う小さな店が集まっていたりする。かつては皆国営商店だったのだろうが、今は皆民営。こうした業者の入れ替えも、フードコート形式の食堂ではしばしばあるのか、店の看板が変わることもあった。この日は私もその山を越え、自らの宿舎のある北院のメインキャンパスまで戻る。北院の周囲を半周した感じだった。

天気はまだ冬の終わりで、春とは言えない。東京と比べ 1 か月遅れで進行しているよう。行く道に並ぶ街路樹は、落葉したまま芽吹きもせず、陰が無い分、明るい。キャンパス内の道に並ぶプラタナスなどは、白いまだら模様の幹だけが露出したままだった。